

令和6年度・7年度 草津市社会教育委員会議

地域の地域協働合校における 今後の展開について(案)

令和8年●月

草津市社会教育委員会議

(事務局:草津市教育委員会事務局生涯学習課)

目次

はじめに	1
1 地域協働合校推進事業について	2
(1)これまでの経緯	2
地域協働合校推進事業とは	2
社会教育委員会議での地域協働合校推進事業の歩み	2
(2)今期の社会教育委員会議での検討	3
地域協働合校を取り巻く社会情勢の変化	3
これまでの地域協働合校における成果と課題	3
今期の方向性について	3
2 地域における地域協働合校推進事業の展開	4
矢倉学区地域協働合校推進事業の視察	4
地域における地域協働合校の展開について	5
地域における地域協働合校の発展的な展開の考え方	6
展開における視点	6
事業展開にあたっての仮定	6
3 「地域版 ESD」モデル事業	7
(1)老上学区防災フェスこども実行委員会の取組について	7
モデル事業について	7
視点を踏まえた実施案	8
こども実行委員会について	9
こども実行委員会の活動内容	11
参加者の募集	12
こども実行委員会の活動周知	12
(2)成果・課題	13
こども実行委員	13
まちづくり協議会・まちづくりセンター	13
コーディネーター・サポーター	14
仮定の検証	14
4 今後の「地域版 ESD」推進に向けて	15
事業実施にあたってのポイント	15
持続可能な事業の展開のために	16
5 まとめ	17
6 おわりに	18
資料編	

草津市では、平成10年度から学校・家庭・地域が連携し、こどもと大人の協働による「地域学習社会」を目指して地域協働合校推進事業に取り組んでいる。地域協働合校は、体験・交流活動を通じてこどもと大人が共に学び合う地域づくりを進めるもので、これまでに積み重ねられた取組は社会性を育む貴重な学びの場として定着している。

一方昨今では、少子高齢化や担い手の固定化といった社会環境の変化、こども基本法施行などの制度改正等により、持続可能な社会のために新たな視点も必要とされている。

その中で、市内小中学校ではそういった変化に対応するため、地域協働合校事業を主に土台とした「スクールESDくさつプロジェクト」を令和4年度から展開しており、地域社会の一員としての意識と行動力を身につけることを目指して取組を進めている。

こうした状況を踏まえて、令和6年度から令和7年度にかけての社会教育委員会議では「地域の地域協働合校における今後の展開について」を議論の中心に据え、これまでの地域協働合校推進事業の成果と課題を振り返るとともに、将来的な地域の担い手育成や持続可能な地域づくりに向けた具体的な方向性を検討した。

その結果、地域の地域協働合校においても「こどもの意見表明・参画」と「大人との共学び」が重要であると考え、事業を実施するうえでの新たな視点として位置付けた。

その議論を受けて実施したモデル事業では、既存事業にこどもが主体的に意見を発信し、具体的な行動へと繋げるプロセスを取り入れ、参加者が楽しく学び合う中で「つながり」や「かかわり」を作り出すことを大切に事業に取り組んだ。

本報告書は、今期の社会教育委員会議での議論の成果を踏まえ、今後の地域協働合校推進事業のさらなる発展に向け、具体的な方向性を整理したものである。持続可能な地域づくりを目指し、こどもと大人が互いに学び合いながら地域社会を支える担い手を育成するための一助として、本報告書が広く活用されることを願いつつ、ここにまとめる。

1 地域協働合校推進事業について

(1)これまでの経緯

地域協働合校推進事業とは

本市では平成 10 年度から「地域協働合校推進事業」を実施しており、今年で 28 年目を迎えた。地域協働合校推進事業は、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を活かし、子どもと大人が協働で学ぶことをめざす事業である。学校と地域それぞれにおいて地域協働合校を展開している。学校では学習内容の充実のために学校の授業や学校支援等諸活動において地域住民が参画し、田植え・稲刈り体験や図書ボランティアなどを行っている。地域では各地域が体験・交流活動等の機会を提供し、地域の川の探検や防災キャンプなど、地域資源を生かした体験活動を重ねており、地域に開かれた学校づくり、地域で子どもが育つまちづくりの両面を担っている。

社会教育委員会議での地域協働合校推進事業の歩み

平成 10・11 年度草津市社会教育委員会において、急速な人口増加に伴う地域の連帯感の希薄化、メディア環境の変化、子どもの過密スケジュールによる子どもの自主性・社会性の未熟化、体験活動の不足、市民の学習成果を社会に生かす意識や仕組みの不足などの背景を踏まえた建議を受け、学校・家庭・地域がそれぞれ持つ教育機能を活かしながら、子どもと大人の協働による地域協働合校推進事業の展開を始めた。

このような背景のもとで開始された地域協働合校推進事業は、その後も地域の実情に応じて子どもと大人が協働して学ぶ事業を展開してきたが、平成 22・23 年度草津市社会教育委員会議では、人間関係の希薄化や、未曾有の大災害となった東日本大震災を契機に、人と地域のつながりや地域の教育力が再認識され、学校・家庭・地域それぞれが連携することで、地域の教育力は大きな力となり、地域を住みやすい安全・安心な場所に変えていくものとして議論が重ねられた。中でも地域協働合校推進事業に関しては、これまで培われた地域力を時代に沿った形でさらに向上させる必要があるとし、社会教育の果たす役割の重要性が示された。

(2) 今期の社会教育委員会議での検討

地域協働合校を取り巻く社会情勢の変化

全国的に少子高齢化や核家族化、地域社会のかかわりの希薄化、体験活動の機会の減少の進行とともに、令和5年4月に施行されたこども基本法施行により、こどもの意見表明や社会活動への参画が求められている。

また、令和5年6月に第4期教育振興基本計画が閣議決定され、持続可能な社会の創り手の育成に貢献するESDの推進や、社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成が記述され、ESD教育の推進により、自ら考え、行動できる人材(こども・大人)の育成や、社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成を実施していくことが重要となってきた。

これまでの地域協働合校における成果と課題

これまでの地域協働合校における成果と課題を、以下のとおりまとめた。

【成果】

- ・ 世代を越えたつながりやこどもと大人が互いに学び合うなど地域づくりの一助となっている
- ・ 地域人材や資源の効果的な活用により、学校と地域の結びつきがさらに強まった
- ・ 自然体験や地域活動を通じて、社会性やコミュニケーション力等を学ぶ場となっている

【課題】

- ・ 少子高齢化や担い手の固定化など、社会環境が変化している
- ・ 地域の地域協働合校の充実に向け、人材確保や内容の検討が必要
- ・ 地域活動への若者の参加を通して、地域社会への貢献や、人とのつながりを育むことが必要

今期の方向性について

社会情勢の変化に対する地域協働合校の対応として、学校では令和4年度から、こどもが主体的に課題解決まで取り組むことを目指し「スクール ESD くさつプロジェクト」を開始（令和6年度から全小中実施）した。

こども基本法施行などの制度改革を受け、新たな視点が求められていることから、地域においても、これからの地域協働合校の展開についての検討を行い、こどもと大人が共に「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、自ら考え、行動できる人材の育成に取り組むことを通し、「地域の担い手づくり」、「持続可能な地域づくり」を目指していくこととした。

2 地域における地域協働合校推進事業の展開

地域における地域協働合校推進事業の今後の展開を考えるにあたり、現状把握のために矢倉学区の地域協働合校推進事業を視察した。

矢倉学区地域協働合校推進事業の視察

【矢倉学区での取組】

- ・ 地域の日常的な活動に子どもが参加できる機会を学校と連携しながら創出し、草津川探検、防災キャンプ、にこにこレストランなど、地域資源を活かした多様な体験活動が継続的に実施されている
- ・ 大人が興味のある事業や、大学との地域連携、親子(次世代の担い手)参加可とした取組を進めている
- ・ 視察した事業は、大学生が講師となって親子で料理をするというもの。調理前には使う食材の育った経緯等を、立命館大学のサークル BohNo のメンバーが参加者にプレゼンし、食の大切さについて伝えた

【視察を受けての社会教育委員の意見(抜粋)】

矢倉学区での地域協働合校を視察し、今後の展開を考えるにあたっての論点整理を行うため、以下3点についてそれぞれ意見を出した。

①地域において子どもと大人が課題解決型の学びに取り組むために必要な要素

- ・ 地域や日常生活にかかわり興味を持てるテーマ設定
- ・ 子どもと大人が一緒に考える機会

②大人が社会教育活動に参画するために必要とされる工夫

- ・ 子どもと地域の大人が触れ合う機会をできるだけ多く作ること
(子どもを通じた大人同士のつながり)
- ・ 誰でもスポット的にでも参加しやすい受け入れ態勢づくり

③「自ら考え行動する人材」を育成するためのポイント

- ・ 大人がお膳立てするのではなく、子どもの自由な発想を促す余白を残す
- ・ 子どもが様々な体験をくり返し、まわりとのコミュニケーションをとることで、自分で考えたり、新しい発見、行動につなげていく

地域における地域協働合校の展開について（詳細は資料編1～2ページ）

視察を受けて委員から出た意見を踏まえ、社会教育委員が2グループに分かれ、地域における地域協働合校を展開していくにあたり必要な要素やポイントを、KJ法にてグループ分けした。

Aグループ 「人」を中心とした運営

- ・ こどもの考える力を育てるため大人は見守る、コーディネーターが調整し各要素をつなげる
- ・ 参加の機会を増やすため、こどもや大人が気軽に参加できる環境づくりや、こどもと大人が出会い親子で考える機会を提供する
- ・ 多様な企画の展開として、こども向け、大人向け、どちらにも向けた企画の展開が大切
- ・ 課題の共有と、既存の取組の情報発信が必要
- ・ SNS、ポスター、会議などを活用し、最新情報を発信することが必要



▲A グループ

Bグループ 大人の参画と地域連携

- ・ こどもの主体的な学びの促進のため、こどもが主体的に考え行動することで成長につながる
- ・ 発信の工夫や対象を考えながら自らの活動を広げていく
- ・ 親子・地域住民の関わり強化のため、親子で参加できる機会を増やし、こどもに寄り添った活動を展開する
- ・ 親だけでなく、地域の大人もこどもと関わる仕組みを作る
- ・ 地域や人との関係づくりのため、地域団体と協力し、問題解決の場を作ること、地域を見守るコーディネーターの育成が必要である
- ・ 大人の参加拡大と地域連携の推進のため、「やってみよう」と思える場作りや、参加しやすい環境を整え、新しい参加者を増やす
- ・ 情報の取得と発信の循環として、こどもにも大人にも情報が届くよう発信を工夫する
- ・ 情報を得て、身近なことから始める循環が必要



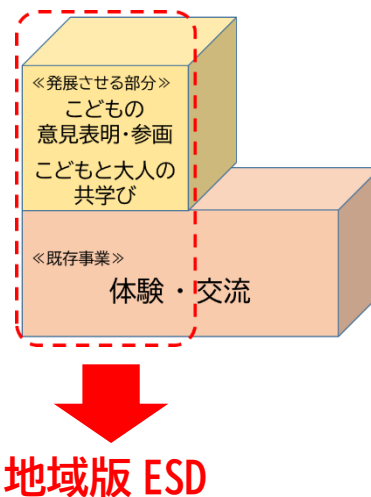
▲B グループ

それぞれのグループで整理した結果をもとに、改めて委員会において議論を行った。

こどもがやりたいことを尊重し、アウトプットの機会を大切にしながら、世代間で意見を共有し課題に取り組むことが重要であること、こどもと大人と共に活動し、主体的に関わる機会を作ること、コーディネーターの発掘と育成などをすることが、今後の展開において大切なポイントとしてまとめられた。

地域における地域協働合校の発展的な展開の考え方

- ・ 従来の地域協働合校の取組を活かして、既存事業の一部を発展させる形で、こどもが自ら意見を出し、参画し、行動するプロセスを意識的に取り入れ、体験に「自分の考え」を乗せて実践につなげる
- ・ 単なる参加者から一歩進んで、「自ら考え行動できる人材の育成」に取り組む
- ・ 「①地域の担い手づくり」「②持続可能な地域づくり」を目指すものを「地域版 ESD」として取り組む



展開における視点

地域における地域協働合校を発展的に展開するにあたり、A・Bグループでとりまとめた意見をもとに、展開にあたって大切にしたいポイントを事務局が以下5点に整理した。

◆こどもの主体的な学びの促進

≪目的≫こどもが自ら考え、行動する力を育むため、こどもが実施したいことを尊重した事業を展開

◆多様な世代が協力する仕組みづくり

≪目的≫地域のつながりと学びの広がりをつくるため、世代間が学ぶ等、多様な世代が協力する仕組みづくり

◆地域との連携とコーディネーターの活用

≪目的≫活動の質と継続性を高めるため、地域人材や地域資源をつなぐ

◆大人が参加しやすい環境づくり

≪目的≫大人が地域の事業に参加しやすくするための、機会や環境づくり

◆情報の共有と発信の強化

≪目的≫大人にもこどもにも地域課題を共有できるよう、情報にアクセスしやすい発信をする
実行委員会の活動について地域住民に周知する

事業展開にあたっての仮定

仮定①:自分の意見が形になることで、自己肯定感・自己有用感の上昇、“地域の一員”としての主体性の上昇が見られる

仮定②:1人では難しいことがみんなでやれば実現できることで、助け合い・学び合いから“つながり”が生まれる

仮定③:大人はこどもをサポートする中で、こどもとともに学び・考えることができる

3 「地域版 ESD」モデル事業

社会教育委員会議にて整理した今後の展開における視点をもとに、地域における地域協働合校を発展させた形を「地域版 ESD」として、モデル事業を老上学区で実施した。

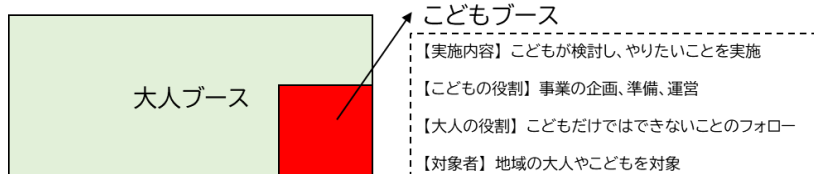
(1)老上学区防災フェス子ども実行委員会の取組について

モデル事業は、令和6年度から老上学区で開催されている「防災フェス」の出展ブースのひとつを、実行委員会形式で運営する形で実施した。公募で集まった子ども実行委員が主体となり防災企画の立案から検討、当日の実施まで取り組んだ。コーディネーターと大学生や地域の大人などのサポーターが子ども実行委員会の活動を支援し、子ども実行委員とまちづくり協議会を生涯学習課が伴走支援する形をとった。

モデル事業について

【事業名】

老上学区防災フェス 子ども実行委員会



【防災フェス事業概要】

- ・ 令和6年度から、災害からの身の守り方や減災について知り、災害に備えるきっかけとして、楽しく老上の防災について学ぶ機会として実施している
- ・ 令和7年8月30日(土)9:00~13:00に開催

【子ども実行委員会の趣旨・目的】

地域の大人と子どもが同じテーマについて共に活動することで、子どもが主体となって、「自ら考え、行動できる人材の育成」に取り組むとともに、地域のつながりやかかわり、地域の一員としての主体性をはぐくむ

【運営方法】

- ・ 小学3年生~中学3年生の子どもとそのサポーターを公募し、さらにコーディネーターを加えたメンバーで構成された実行委員会によるブース(ステージ)の企画・運営
- ・ 防災フェスまでの約2か月半の間、5回の実行委員会を実施
- ・ 防災フェス全体の実施主体であるまちづくり協議会・SOS 委員とともに、生涯学習課は子ども実行委員会の伴走支援

視点を踏まえた実施案

「地域版 ESD」の展開にあたって整理した視点を踏まえ、モデル事業においてそれぞれの目的を達成するための具体的な展開を検討し、以下の実施案に則って事業を実施した。

実施案としては、こどもの主体性を最大限尊重しつつ、地域の大人や大学生との協働を通じて多様な学び合いを創出するため、参加者の募集や学びを取り入れる手法等について検討した。

◆こどもの主体的な学びの促進

《方法》

- ・ 学びを通じた人材育成に取り組むため、こども実行委員会で学びの時間を取り入れる
- ・ 学びの時間では防災をテーマに講師を招聘し話を聞いたあと、学びをアウトプットするためグループワーク等を行う
- ・ こどもが自ら考え、行動できる力を育むため、防災について学んだことから、実施したいことについて、こどもが意見を出し合い、出展内容を検討・決定する

◆多様な世代が協力する仕組みづくり

《方法》

- ・ 多様な世代（特に若者）に参加してもらうため、高校・大学・地域にサポーター募集について周知

◆地域との連携とコーディネーターの活用

《方法》

- ・ 幅広い学びを提供するため、広い人脈を持っている人や素質がある人に声をかけ、コーディネーターとして事業に携わってもらう

◆大人が参加しやすい環境づくり

《方法》

- ・ まちづくり協議会、SOS 委員会と協議し、
 - 保護者が参加しやすいようにこども実行委員会の土曜開催や親子での参加可
 - 気軽に参加できるように1日のみの参加を可能としてサポーターを募集

◆情報の共有と発信の強化

《方法》

- ・ 情報が届きやすいよう、LINE、Sigfy、全戸配布、掲示板、HP、口コミなど、紙（チラシ）や SNS を活用して周知する

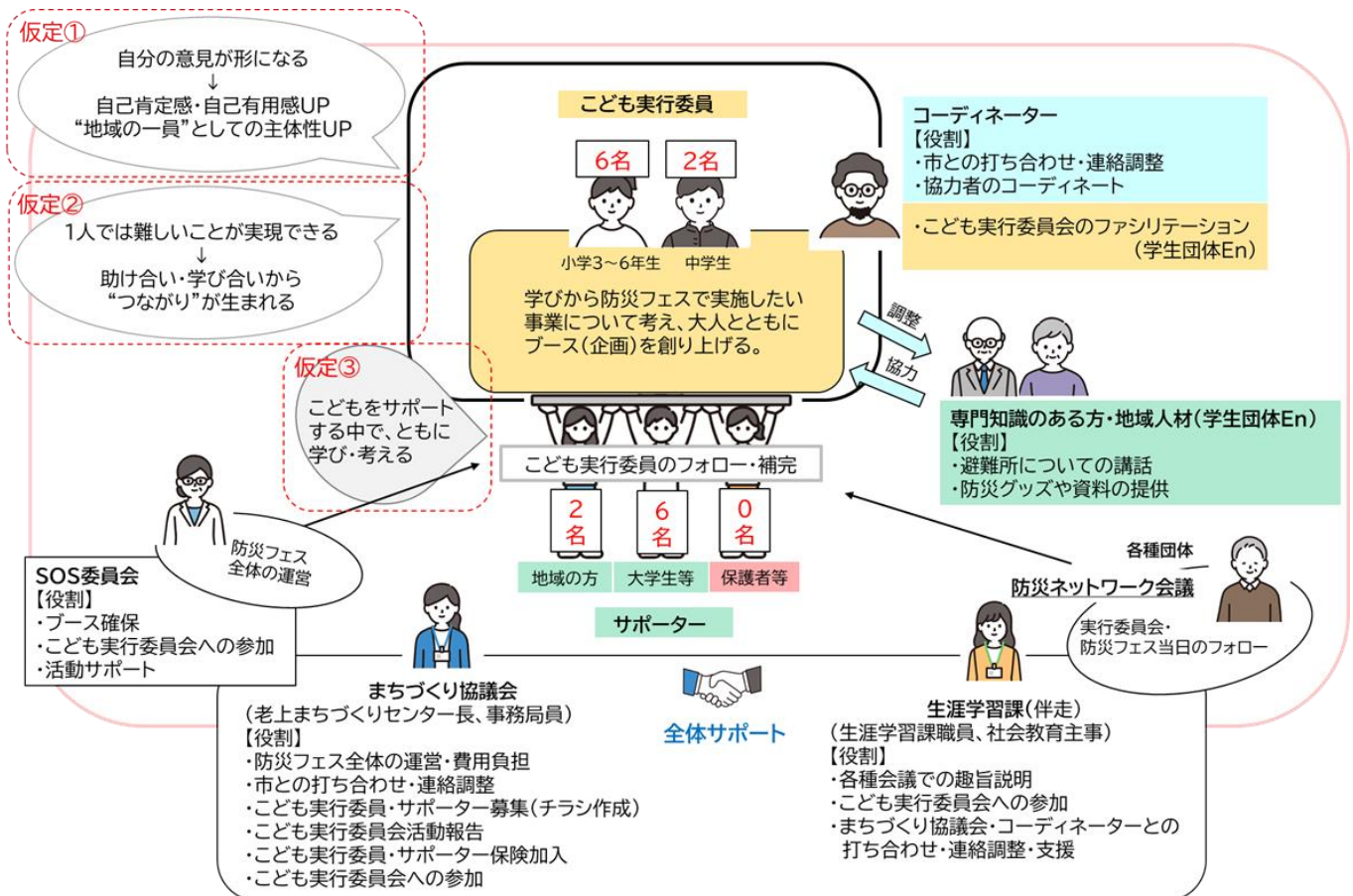
こども実行委員会について

生涯学習課の説明により関係者と役割分担について共通認識を図り、防災フェス当日の企画実施に向けて5回にわたるこども実行委員会を実施した。

【集まった人数】

- ・ コーディネーター 3人(学生団体 En※)
- ・ こども実行委員 小学3年生 3人、小学4年生 3人、中学1年生 2人 計8人
- ・ サポーター 地域の方 2名、大学生等 6名(うち高校生 1名)、保護者等 0名

計8人



※学生団体 En…「みんなが安心できる地域社会を」を理念に、防災(特に避難所)をテーマに活動している学生団体。老上学区在住の大学生、市内在住の大学生、県外在住の大学生で構成されている。老上学区でのこども実行委員会のコーディネーターを務めた。

※SOS委員会…老上学区のボランティア活動団体。様々な世代が個人として参加しており、人と人、団体と団体、人と人との関心ごとをつなぐことで、防災活動に取り組んでいる。防災フェスを主催。

こども実行委員会に関わった各主体の役割について以下にまとめた。

【まちづくり協議会】

全体の運営や連絡調整、こども実行委員会の募集など、事業全体のサポートを行う

- ・ 防災フェス全体の運営や市との打ち合わせを行う
- ・ こども実行委員会の募集・集約・運営を行う
- ・ こども実行委員会の活動報告の周知

【コーディネーター】

こども実行委員会の活動全般にわたって中心的な役割を担い、円滑な進行を支援する

- ・ 企画内容決定のためのヒント出しや防災学習のサポートを行いながら、こどもたちの意見を引き出す
- ・ まちづくり協議会や SOS 委員会のこども実行委員会に対する要望に対し、関係団体を紹介したり、要望を汲んだファシリテーションを行ったりする

【各種団体（SOS 委員会、学生団体 En）】

こども実行委員会の実施にあたって協力を行う

- ・ こども実行委員会に参加してこどもの活動をサポートする
- ・ 講師として防災についての講話を行う
- ・ 防災グッズや資料の提供を行う

【こども実行委員】

防災フェスに向けて大人（コーディネーター・サポーター）と共に企画の検討・準備を行う

- ・ 防災フェスで実施したい事業を企画し、大人と共に企画を創り上げる
- ・ 企画の検討や、企画実施に向けての準備を行う
- ・ 防災フェス当日のステージ企画を実行する

【サポーター】

実行委員会に参加しこどもをサポートする中で、こどもとともに学び、考える

- ・ 必要以上の口出しはせず、こどもが考えたことに意見を出し事業の完成度を高める
- ・ こどもだけではできない活動をサポートする

【小中学校】

こどもへの周知の協力

- ・ Sigfy でのチラシの電子配信、紙チラシの配布

【生涯学習課】

各種関係先との連絡調整を行い、こども実行委員会の活動統括や事業が円滑に進むよう支援を行う

- ・ 各種会議での事業の趣旨説明
- ・ コーディネーターの発掘・育成・打ち合わせ

こども実行委員会の活動内容（詳細は資料編3～6ページ）

取組のプロセスは5段階に分けることができる。「体験・交流」を通じて知識や技術を学び、「気づく・知る」で地域課題を自分ごととして捉えた。この部分は従来の地域協働合校の部分に該当する。「こどもの意見表明・参画」の場ではこどもたちがアイデアを出し合い、「こどもと大人の共学び」を通じて大人の意見を取り入れ企画を磨き上げ、最後に「行動」として防災フェスのステージ企画（防災クイズとバケツリレー）を実施し、地域へ防災意識の大切さを発信し、企画は盛況のうちに幕を閉じた。下図に示す赤丸部分が今回発展的に取り組んだ部分である。



「地域版 ESD」は単発のイベントにとどまらず、次世代の担い手を育てる「学びと実践の循環」を地域に根付かせる重要な取組になり得る。

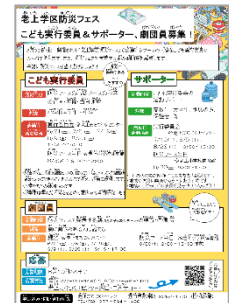
この学びのサイクルを繰り返していくことで育まれる主体性や地域の方とのつながりが、「地域の担い手」を育て、持続的な地域コミュニティの基盤を形成していくことにつながる。

参加者の募集（詳細は資料編7～8ページ）

こども実行委員会のメンバーであるこども実行委員とサポーターについては、以下の方法により、小中学校や高校・大学、地域住民に募集を行ったところ、こども実行委員8人とサポーター8人が集まった。

周知先	募集方法	
老上小学校 老上中学校	全児童生徒へ紙チラシの配布、Sigfy での電子配信	まち協 事務局
光泉高校	紙チラシの配布	まち協 事務局
立命館大学	紙チラシの設置、大学職員から学生への声掛け	生涯 学習課
地域住民	全戸配布の広報に挟み込んだ紙チラシの配布、 まちづくり協議会 LINE、まちづくり協議会 HP	まち協 事務局

- ・ 目に留まりやすいよう、紙チラシの配布と電子媒体での周知を中心に行った。紙チラシの配布はこどもの自主的な参加に有効
- ・ 安心して参加できる点から、協力者の募集は知り合いからの声掛けが効果的
- ・ 防災フェス(事業)の実施目的を伝えると効果的



募集チラシ▲

こども実行委員会の活動周知（詳細は資料編9～10 ページ）

こども実行委員会の取組に興味を持った人に、こども実行委員会への参画や防災フェスへの来場を期待し、こども実行委員会の活動を周知した。

日付	内容	
6/26(木)、7/10(木)、 7/24(木)、8/28(木)	第1～4回こども実行委員会活動報告 (まちづくり協議会 HP)	まち協 事務局
8/19(火)～	こども実行委員会活動チラシ配布 <配布先> ・まちづくり協議会 HP ・フレンドマート南草津店 ・ロマン楽器	まち協 事務局

- ・ 多くの人の目に触れるよう、地域の商業施設にも周知チラシを貼ることを依頼した



活動内容周知チラシ▲

(2)成果・課題

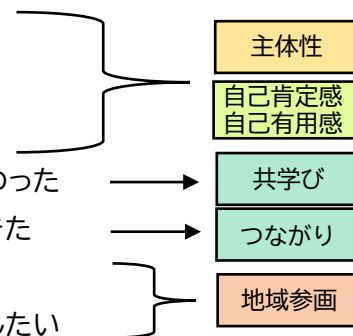
モデル事業に取り組むことで得られた成果と課題について、こども実行委員、まちづくり協議会・まちづくりセンター、コーディネーター・サポーターにアンケートとヒアリングを行った。

こども実行委員（詳細は資料編 11～14 ページ）

今回の活動で企画の立案から実行までを経験し、多くの学びや達成感を得た。また、自己肯定感・自己有用感や主体性の向上や、年齢や世代を越えてのつながりが生まれた。

【成果】

- ・ 自分が考えた企画が採用されたことが嬉しかった
- ・ 当日は緊張したが、最後までやり遂げることができて気持ち良かった
- ・ 頑張りを家族に褒めてもらえた、先生が見に来てくれて嬉しかった
- ・ みんなで取り組めて知らないことを知れた、大学生から防災の知識を教わった
- ・ 他の参加者と学年を超えて仲良くなれた、大学生にも心を開くことができた
- ・ 実行委員会に参加するのが毎回楽しく、また来年も参加したい
- ・ 大きくなったら今回の大学生のように自分がリーダーとして地域で活動したい



【課題】

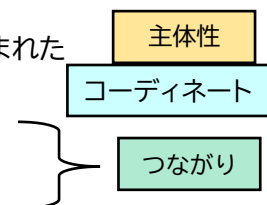
- ・ 毎回参加したかったが、部活等で実行委員会を休むこともあった

まちづくり協議会・まちづくりセンター

コーディネーターを含めた多様な大人の存在が、こどもの主体的な関わりや斬新な発想を生み出した。一方で、事業後のこども実行委員の継続的なかかわりや人材発掘について課題を抱える。

【成果】

- ・ こどもが主体的に関わる姿が見られ、大人の常識にとらわれない新しい発想が生まれた
- ・ コーディネーターが楽しい雰囲気を作り、こどもの意見をうまく吸い上げていた
- ・ 多様な大人の存在は欠かせないものであった
- ・ 既存事業にこどものかかわりを増やしたことで、昨年度より来場者もかかわってくれる人も昨年度より多様な世代が増えた



【課題】

- ・ 事業終了後、こども実行委員に継続的に関わってもらう受け皿を用意できていない
- ・ 地域内外の良い人材に関わってもらえたが、発掘することは困難

コーディネーター・サポーター

子どもから多様性や伝える工夫などの学びがあった。また、地域とのつながりが生まれ、達成感を得た。一方で、企画の組み立てや役割分担の課題があった。

【成果】

- ・ 子どもたちがすごく活発で、一緒に楽しみながら作っているという感じがあった
- ・ 答えはひとつじゃない(多様性がある)ことを改めて子どもたちから学んだ
- ・ 子どもにも理解してもらうため、伝え方を工夫したり、勉強になった
- ・ 地域と繋がれたことに達成感がある
- ・ 機会があれば地域活動に今後も参加したいと思うようになった
- ・ 知り合いからの声かけがあったため、参加しやすかった
- ・ 子どもの主体性を引き出せるように口出しを控え主体性を尊重することを心掛けた

つながり

共学び

地域参画

主体性

【課題】

- ・ 「楽しさ」と実際の災害時を想定した企画のバランスを取ってのアドバイスが難しかった
- ・ 小学校3・4年生の集中力が切れたときの対応が難しかった
- ・ コーディネーターとサポーターの役割分担がわかりにくかった

仮定の検証

モデル事業を実施するにあたり、以下3点が成果として得られることを仮定して取り組んでいたが、アンケートやヒアリングの結果から、仮定は立証されたとと言える。

また、地域版 ESD の実施により、地域参画の意識が芽生えるといった、副次的効果も得られた。

【仮定①】

主体性

自己肯定感
自己有用感

自分の意見が形になることで、自己肯定感・自己有用感の上昇、“地域の一員”としての主体性の上昇が見られる

→企画が採用されたことや周囲の人からの声掛けにより、子どもたちが主体的に関わる姿が見られ、自己肯定感の上昇につながった

【仮定②】

つながり

1 人では難しいことがみんなでやれば実現できることで、助け合い・学び合いから“つながり”が生まれる

→みんなで楽しみながら企画を作り上げることで、年齢を越えた“つながり”が生まれた

【仮定③】

共学び

大人は子どもをサポートする中で、子どもともに学び・考えることができる

→大人は子どもから改めて学ぶことがあり、子どもは大人から知らないことを知るなど、お互いの存在から学びがあった

【想定していなかった成果】

地域参画

・ 子ども・大人ともに今後の地域参画の意識が芽生えた

→地域の担い手づくりや持続可能な地域づくりにつながる

4 今後の「地域版 ESD」推進に向けて

事業実施にあたってのポイント

(1)既存事業における展開

「地域版 ESD」は、新規事業として立ち上げる必要はなく、既存の地域行事や取組を活かして、子どもたちが意見を出し、主体的に参加できる機会を創出することで「自ら考えて行動できる人材」の育成に取り組むことが可能である。

- ・ 自ら考え、行動できる人材を育成するため、子どもが意見を出せるなど、主体となって活動できる場をつくるとともに、自由に意見を出すだけでなく、実現可能性を加味して検討することを伝える
- ・ 既存事業の中でも、地域が悩んでいることをテーマとして設定すると、大人も子どもともに学べ、意見を出しやすい

(2)コーディネーターへの期待

「地域版 ESD」を推進するためには、コーディネーターの存在が重要である。子どもの意見が出やすいコーディネートをすることは、子どもの主体的な意見を促す一助になる。意見を自由に表現できる場は、子どもと大人が互いに学び合うきっかけになり、また、子どもの視点を活かした新たなアイデアの創出にもつながる。

- ・ 子どもとの関わり方にある程度慣れていて、子どもと一緒に何かをしたいと思う人に声をかけることで、子どもの主体性を大事に進められる可能性が高まる
- ・ 特別なスキルや資格はなくてもコーディネーターとして活躍できるが、設定するテーマや活動内容に合う知識や経験・スキルを持っている人の方が互いに抵抗なく受け入れ可能
- ・ 若いコーディネーター・サポーター(大学生)がいたことにより子どもとの距離感が縮まったため、市域に高校や大学がある強みを生かした募集をする
- ・ コーディネーターは生涯学習課の伴走支援(事業の進め方や方向性などの助言、事業の中での学びや経験を通じての気づきを促すなど)により育成する
- ・ 子どもが自由に意見できるよう、必要以上の口出しはせず主体性を引き出す問いかけを行う
- ・ 子どもを主体的な学びを促進するため、大人の知識を一方向的に教えるのではなく、子どもの知っていることを引き出す
- ・ 子どもが自ら考え、行動する力を育むため、子どもが出す意見を尊重し、可能な限り意見を取り入れ、反映する
- ・ 次回の参加意欲につなげるため、褒めることや自ら考えなおすことを促す声掛けを意識する

(3)「楽しむ」ことを主眼に置いた事業展開

多様な世代との関わり自体を楽しめるような事業展開にすることで、実行委員会への参加意欲が高まり、次回以降の事業への参画にもつながる。

- ・ 参加する大人も堅苦しくならず、「子どもと楽しむ」ことを大事にする
- ・ 楽しい雰囲気が意見を出しやすくすることにつながるため、子どもも大人も楽しみながら学べる進め方を検討する

持続可能な事業の展開のために

事業に関わったことも大人には「地域版 ESD」の事業を契機に継続的に地域に関わってほしい。継続して関わってもらうためには、地域の事業へのかかわりしろが必要である。

- ・ 地域コミュニティの活性化のため、継続的に地域活動に関わってもらえる受け皿があることが大切
→「地域版 ESD」の事業だけでなく、他の既存事業にも今回かかわった人やその仲間に参加・参画してもらう(楽しかった・やりがいがあったという思いがあるうちに次の出番を用意しておく)
- ・ 次世代の担い手を育成するため、保護者世代や地域の方を巻き込みながら事業を実施する工夫が必要
→モデル事業では子ども実行委員の保護者の参画がなかったため、矢倉学区のように親子参加とすることで保護者世代を巻き込むことができる可能性がある
→大学生などの流動的な若い力を活用するだけでなく、ゆるやかなつながりで気軽に地域住民が参画する仕組みを作って地域の担い方の選択肢を増やし、そこから深化を促すことで、安定した事業の継続が可能となり、地域の力が高まる
- ・ 学生は流動的であるため、事業に関わった学区の大人は、次のコーディネーターやサポーターとなっていく意識につなげてほしい
- ・ 主体となって活動できる子どもだけが参画していることにならないよう、どんな環境にあることもたちも参加しやすい環境を作る工夫があると良い
→障害があつたり母国語が異なる子どもにかかわる大人の参画も大切
- ・ 参加した人が次につながっていくことにより、自然と地域の担い手をつくり、それが複数年開催されることで将来的には今よりもっと多くの人を巻き込んだ多世代の人に関わってもらえることで「地域の担い手づくり」、「持続可能な地域づくり」につながる

5 まとめ

本市では、平成 10 年度から地域協働合校推進事業を推進し、学校・家庭・地域が連携した体験・交流活動を通じて、子どもと大人が共に学び合う地域づくりを進めてきた。世代を越えたつながりや、地域資源の再発見と誇りの醸成に寄与しており、社会性を育むうえでは自然体験や地域活動などの体験活動を担う重要な場としての積み重ねがある。しかし、少子高齢化や担い手の固定化、参加者数の減少など、地域コミュニティを支える基盤の弱体化や、子どもの意見表明などが求められ、地域活動の継続や次世代との関わり方に新たな視点が必要となってきた。

こうした背景を踏まえ、今期の社会教育委員会議では、地域協働合校のこれまでの財産を活かしつつ、「子どもの意見表明・参画」と「子どもと大人の共学び」を柱とする「地域版 ESD」を新たな視点として位置付け、検討を重ねてきた。モデル事業として、老上学区防災フェスにおける子ども実行委員会で「地域版 ESD」を進めた。子どもが主体となって企画を立案し、大人や大学生など、多様な人材が子どもを支援することで、自己肯定感や達成感の向上、世代を超えたつながりの創出、地域参画意識が芽生えるといった、多面的な成果が確認された。

この実践から、「地域版 ESD」で地域が取り組むべきポイントは 3 点挙げられる。一つ目は、既存の地域行事や取組で子どもが意見を出し、役割を持って参画できる場を意図的につくること。二つ目は、子どもの主体性を尊重しながら活動を支えるコーディネーターやサポーターにかかわってもらうことである。コーディネーターには一定の調整力や知識が求められるものの、特別な資格や専門知識が必要なものではなく、子どもと一緒に何かしたいという思いがあれば担うことができる役割である。三つ目は、子どもも大人も「楽しみながら学ぶ」ことを大切にすることである。「楽しかった」という体験が次の地域活動につながると考えられる。

本市が策定する教育振興基本計画においても、「主体的に学び、社会や地域と関わる力の育成」や「地域と連携した教育の推進」が基本方針として掲げられており、「地域版 ESD」はこれらの方針と整合する取組である。また、現在、中央教育審議会において「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」が審議されており、社会教育には学びを通じて人と人、人と地域をつなぐ役割が一層求められている。本市の「地域版 ESD」は、まさにその方向性を具体的に体現する取組であると言える。

「地域版 ESD」の展開を進めるにあたり、今回のモデル事業で明らかになったコーディネーターを集める手法や保護者世代の関わり方の少なさ、事業終了後に継続して地域活動にかかわってもらえる場づくりなどの課題を踏まえ、事業のさらなる充実を図ることが大切である。今後は、各学区の実情に配慮しつつ、「ESD for 2030」の達成年度である 2030 年度を目標に、市域全体に段階的に拡大していくことを目指し、地域が主体的に進める「地域版 ESD」の実践を行政が伴走支援する形で、地域と行政が協力しながら着実に進めていくことが求められる。

「地域版 ESD」の基盤である地域協働合校の取組は、平成 10 年から続く草津市の誇れる教育施策である。「地域が人を育て、人が地域を育てる」という理念を実現し、「子どもが輝く教育のまち 出会いと学びのまち くさつ」を実現することが期待される。従来の大人主導の取組も重要な体験機会として継続しながら、一事業でも子どもが自分の考えを発信し、地域の一員として地域において自分の学びを役立てたいという思いを育むことを目指し、ぜひ「地域版 ESD」取り組まれることを期待する。本報告書を参考に、防災だけでなく自然環境や文化・歴史、産業などの地域資源や地域の特色、既存事業を活かしたテーマで展開し、子どもが主体性を発揮しながら大人とともに学び合える場が提供されることを期待している。

6 おわりに

今期の社会教育委員会議は、今後の地域協働合校の展開についてというテーマで活動してきた。草津市でこれまで四半世紀にわたって取り組まれてきた地域協働合校においては、学校のさまざまな活動に地域住民が参加し、また子どもと大人がともに地域のさまざまな活動に参加してきた。この地域協働合校の取り組みを今後も継続していくためには、いかにして地域の担い手を確保し、持続可能な地域づくりを目指すか。会議ではこれらの課題について、みんなで考えていくことになった。

市内小中学校においては、令和4年度から「スクール ESD くさつプロジェクト」が開始され、モデル校での2年間の実施を経て、ちょうど今期の社会教育委員会議発足と同じ令和6年度から草津市の全小中学校で実施されることとなった。社会教育委員会議では、この「スクール ESD くさつプロジェクト」のモデル校であった松原中学校での取り組みや、矢倉学区の地域協働合校の実際の取組に学びながら、地域協働合校の成果と課題について整理検討したうえで、老上学区防災フェス子ども実行委員会に「地域版 ESD」のモデル事業として参画し、以上の活動をまとめた本報告書では、今後地域において「地域版 ESD」に取り組んでいくことを提言している。

この提言の意味するところは、これまでの地域協働合校での取組とは別の新しい活動に取り組むということではない。むしろ、これまでの取り組みに子どもの主体性の尊重という ESD の視点を取り入れることで、地域協働合校の取り組みが持続可能なものになっていくことを期待している。

今期の社会教育委員会議では、地域協働合校、あるいは地域そのものを、持続可能なものにするためには、大人にとっても子どもにとっても活動への参加のハードルを下げ、大人も子どももともに楽しく活動にかかわることができるようにすることが重要であるということが話し合われた。子どもの主体性、と聞くと大変だと思われるかもしれないが、大人が一切意見を出してはダメだといったことではまったくなく、子どもの意見も積極的に取り入れ、大人が子どもに教えるだけでなく、逆に子どもから大人が学ぶこともあるという視点も大事にすることで、大人も子どももともに楽しんで活動に参加できるのではないかとというのが趣旨である。

また、活動を楽しむだけでは、地域課題の解決につながらず ESD と呼べないのではないかとと思われるかもしれない。しかし、地域課題の存在や、そうした課題が自分にかかわりがあるということに、まずは気づくことが重要であり、その後課題解決に向けて持続的に考えていくためのきっかけになればいいというくらいのスタンスで、活動に参加するとよいのではないかと考えている。

今期の社会教育委員会議の活動やそのまとめとしての本報告書の作成にあたっては、矢倉、老上両学区の関係者をはじめ、多くの方にお世話になった。記して感謝申し上げたい。本報告書を、地域協働合校の取り組みや地域そのものを、今後も持続可能なものとしていくために役立てていただければ幸いである。

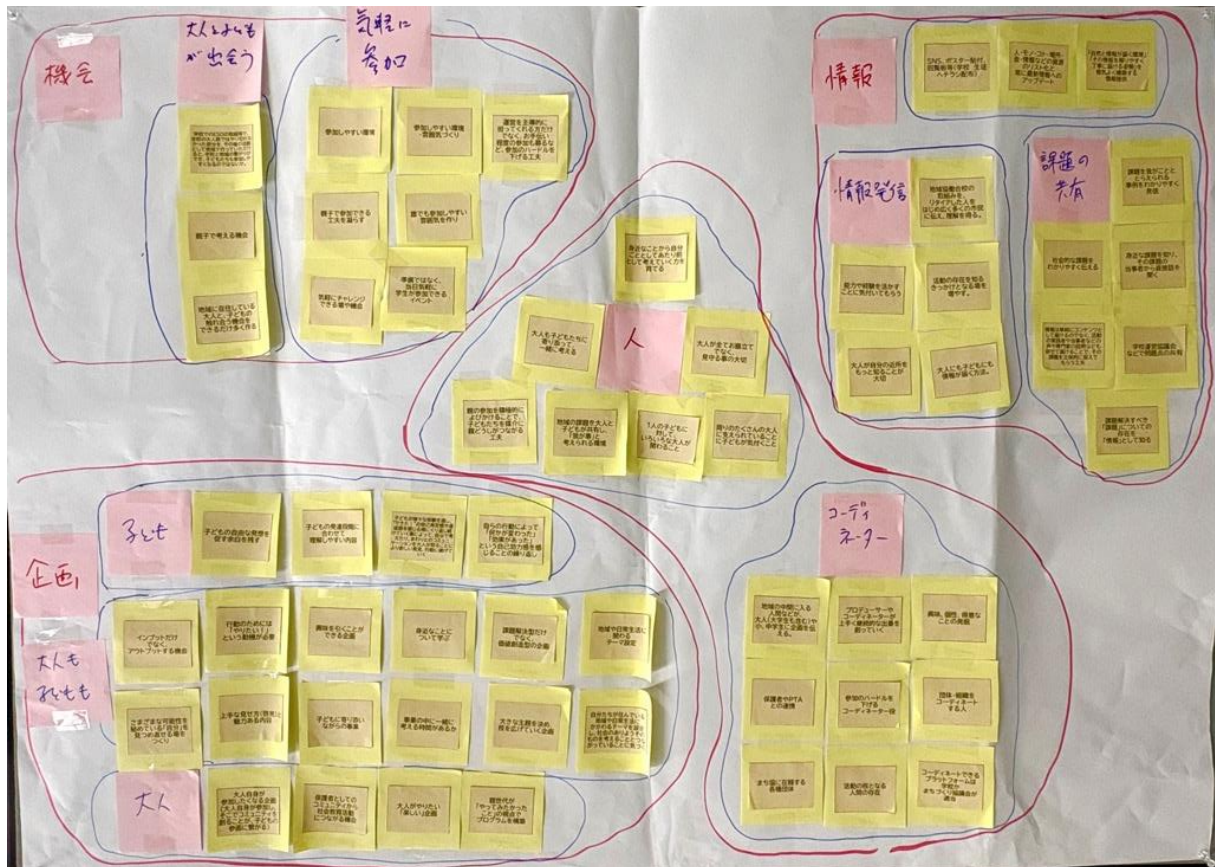
令和8年2月

草津市社会教育委員会議 委員長 四方 利明

地域における地域協働合校の展開について

社会教育委員が2チームに分かれ、視察を受けて地域における地域協働合校を展開していくにあたり必要な要素やポイントをKJ法にてそれぞれグループ分けした。

Aグループ 「人」を中心とした運営



子どもと大人が気軽に参加できる環境づくりや親子で考える機会の提供など、多様な企画の展開が必要であり、コーディネーターは各要素をつなげ、人を中心に運営していくことが重要だという意見が出された。

また、情報面においては地域課題の共有と既存の取組を知ってもらうための情報発信が必要だという意見があった。

こども実行委員会の経緯

こども実行委員会は、まちづくり協議会・SOS 委員会との打ち合わせや会議にて地域に事業趣旨を十分理解してもらい、こども実行委員とサポーターの募集を行った。6～8月にかけて計5回のこども実行委員会を開催するにあたり、コーディネーターの発掘・打ち合わせ等も行った。

【取組】


日付	内容			
3/17(月)	まちづくり協議会に説明 ・社会教育委員会議の趣旨について	まち協 会長	まち協 事務局	生涯 学習課
3/24 (月)	老上小学校に説明 ・こども実行委員会の趣旨説明 ・チラシの配布等について依頼		まち協 事務局	生涯 学習課
4/3(木)	まちづくり協議会と打ち合わせ ・老上学区防災フェスでこどもを主体とした ブースの出展について協議	まち協 会長	まち協 事務局	生涯 学習課
4/14(月)	老上中学校に説明・打ち合わせ ・こども実行委員会の趣旨説明 ・チラシの配布等について依頼		まち協 事務局	生涯 学習課
4/17(木)	SOS 委員企画チーム会議 ・SOS 委員企画チームにこども実行委員会の趣旨説明 ・防災フェスのタイムスケジュール等について共有 ・コーディネーター発掘	まち協 会長	まち協 事務局	SOS 委員 生涯 学習課
4/24 (木)	SOS 委員チームリーダー会議 ・SOS 委員の各チームリーダーにこども実行委員会の趣旨説明 ・他ブースの出展内容について共有 ・コーディネーター発掘	まち協 事務局	SOS 委員	生涯 学習課
	チラシ作成			まち協 事務局
5/10(土)	SOS 委員企画チーム会議 ・こども実行委員募集チラシ	コーデ イナー	まち協 事務局	SOS 委員 生涯 学習課
5/17(土)	SOS 委員全体会議、防災ネットワーク会議 ・各地区防災担当者にこども実行委員会の趣旨説明 ・こども実行委員・防災フェス当日の協力依頼	コーデ イナー	SOS 委員	まち協 事務局 生涯 学習課
5/22(木)	立命館大学にチラシ配布依頼			生涯 学習課
5/26(月)	光泉カトリック高校にチラシ配布依頼			まち協 事務局
6/10(火)	申込者の集約			まち協 事務局
6/20 (金)	コーディネーターと打ち合わせ ・コーディネーターにこども実行委員会の趣旨説明 ・第1回こども実行委員会の内容について協議	コーデ イナー		生涯 学習課

日付	内容				
6/21(土)	第1回こども実行委員会	コーディネーター	まち協事務局	SOS委員	生涯学習課
7/5(土)	第2回こども実行委員会	コーディネーター	まち協事務局	SOS委員	生涯学習課
7/17(木)	コーディネーターと打ち合わせ ・第3回こども実行委員の内容について協議			コーディネーター	生涯学習課
7/19(土)	第3回こども実行委員会	コーディネーター	まち協事務局	SOS委員	生涯学習課
8/6(水)	コーディネーターと打ち合わせ ・第4回こども実行委員の内容について協議			コーディネーター	生涯学習課
8/9(土)	第4回こども実行委員会	コーディネーター	まち協事務局	SOS委員	生涯学習課
8/22 (金)	コーディネーターと打ち合わせ ・第5回こども実行委員の内容について協議			コーディネーター	生涯学習課
8/23 (土)	第5回こども実行委員会	コーディネーター	まち協事務局	SOS委員	生涯学習課
8/27 (水)	コーディネーターと打ち合わせ ・防災フェスの動きについて協議			コーディネーター	生涯学習課
8/30 (土)	防災フェス当日	コーディネーター	まち協事務局	SOS委員	生涯学習課

こども実行委員会の活動内容


アイスブレイクを交えてこども実行委員同士の仲を深め、5回の実行委員会を実施した。クイズとバケツリレーを企画から行うことで、主体的に多くの意見を出し、コーディネーター・サポーターともに楽しみながら進めることができた。防災フェス当日は参加者に防災の大切さを伝える姿が見られた。全体を通してこどもと大人が共に企画を磨き上げる姿が見られ、学年間や異世代のつながりが深まった。

回	開催日	内容
第1回	6月21日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> アイスブレイク 老上学区の防災についてセンター長から説明 ハザードマップを見ながら避難場所や避難経路を考える ブース(ステージ)企画の案出し <u>「みんなに楽しんでもらえるものにしたい」「誰にでも防災が伝わるようにしたい」という意見が出た</u> コーディネーターを中心に<u>防災を身近に感じる学びを実施</u>
第2回	7月5日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> アイスブレイク ブース(ステージ)企画の案出し→実施内容決定 <u>「参加者全員が楽しめるものにしよう」「小さい子から高齢者まで楽しめることはなんだろう」とこどもで検討し、みんなが防災についてたくさん知ることができるクイズを実施することに決定</u> コーディネーターはこどもと実施内容を一緒に考えたり、案を決める<u>ヒント出し</u>をしたりした
	(土)	<ul style="list-style-type: none"> クイズの内容決定 グループに分かれて実施方法等を検討 <u>「みんなで協力してできるんじゃないか？」</u>というこどもの意見を受け、バケツリレーもすることに決定 バケツリレーでは<u>「こどもやお年寄りでも受け渡しが簡単にできるように」と</u>のこどもの意見から、距離等を相談した サポーターからはよりよい取組になるよう意見が出た
第4回	8月9日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> 防災活動をする学生団体から避難所について説明 クイズチームでは、出題するクイズの内容を決定 バケツリレーチームでは、当日の動きのシミュレーション <u>「クイズの選択肢を災害に関係のあるものにする」と、他の選択肢のことも学べると思う」という意見があった</u> 老上ならではのクイズを入れる案が出て、サポーターから老上検定を活用してはどうかという提案があった

回	開催日	内容
第5回 	8月 23 日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハーサル ・ こどもが読める表記や画像の使用など、<u>伝わりやすいスライド</u>について提案があった ・ リハーサルを受けての課題をこどもとともに修正した
防災 フェス	8月 30 日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災クイズ ・ バケツリレー ・ こども実行委員会のメンバーは緊張しながらも楽しんで会場を盛り上げていた ・ 来場者にも楽しんで参加してもらうことができた

参加者の募集

募集チラシ(表面)



老上学区防災フェス

子ども実行委員 & サポーター、劇団員募集!

8月30日(土)に開催される「老上学区防災フェス」で出展するブースの内容を子ども実行委員のみなんで考えます。また、防災フェスで実施する劇の劇団員を募集します。
一緒に防災フェスを盛り上げましょう!

子ども実行委員

活動内容 防災フェスの出展ブースの内容の企画・準備・当日運営

対象 小学校4年生～中学生

活動日 実行委員会 @老上まちづくりセンター
6/21(土)、7/5(土)、7/19(土)、8/9(土)、8/23(土)
13:30～15:00

活動場所 防災フェス当日 @老上小学校体育館
8/30(土) 9:00～13:00

- ・災害が起こる前(避難セットの用意など)、起こったときの避難所運営などにできることをみんなで考え、企画に反映します。
- ・お友だちとの参加もOKです!
- ・小学生は学んだ内容をまとめて夏休みの自由研究にも!

劇団員

活動内容 防災フェスで発表する劇(3匹の子ぶたがテーマ)の練習・準備等

対象 劇に興味のある人は誰でも

活動日 練習 @老上まちづくりセンター
6/21(土)、7/5(土)、7/19(土)、8/9(土)、8/23(土) 15:15～17:00

防災フェス当日 @老上小学校体育館
8/30(土) 9:00～13:00(予定)

サポーター

活動内容 子ども実行委員の活動サポート

対象 高校生、大学生、地域の方、保護者等

活動日 実行委員会 @老上まちづくりセンター
7/19(土)、8/9(土)、8/23(土) 13:30～15:00


防災フェス当日 @老上小学校体育館
8/30(土) 9:00～13:00

- ・1日のみの参加や親子での参加も大歓迎です!
- ・地域の防災に興味のある人におすすめです!
- ・地域の子どもたちの成長を見守りたい人もぜひ!

応募

応募期限 6月10日(木)まで

応募方法 電話(077-564-1430)・FAX(077-564-1430)
老上まちづくりセンター窓口・二次元コード



お申し込みは
こちらから

申し込み・問い合わせ先 老上まちづくりセンター 窓口業務時間 8:45～17:00(日・祝休館)
TEL・FAX 077-564-1430

FAX送信票

老上学区防災フェス
こども実行委員・サポーター・劇団員
応募用紙

老上まちづくりセンターあて (FAX:077-564-1430)

※小中学生の応募の場合は保護者の方が記入してください。

記入者 情報	ふりがな	
	氏名	
	連絡先(電話番号)	(応募者との続柄:)
応募者 情報	ふりがな	
	氏名	
	年齢(学年)	歳 (小学 ・ 中学 年生)
	参加ジャンル ※こども実行委員・サポーターと劇団員、両方への申し込みも大歓迎です！	<input type="checkbox"/> こども実行委員 (参加日 <input type="checkbox"/> 6/21(土) <input type="checkbox"/> 7/5(土) <input type="checkbox"/> 7/19(土) <input type="checkbox"/> 8/9(土) <input type="checkbox"/> 8/23(土) <input type="checkbox"/> 8/30(土))
	<input type="checkbox"/> サポーター (参加日 <input type="checkbox"/> 7/19(土) <input type="checkbox"/> 8/9(土) <input type="checkbox"/> 8/23(土) <input type="checkbox"/> 8/30(土))	
	<input type="checkbox"/> 劇団員 (参加日 <input type="checkbox"/> 6/21(土) <input type="checkbox"/> 7/5(土) <input type="checkbox"/> 7/19(土) <input type="checkbox"/> 8/9(土) <input type="checkbox"/> 8/23(土) <input type="checkbox"/> 8/30(土))	

小・中学生は
○をして、
学年を
書いてください

参加ジャンルと
活動できる
日程すべてに
チェックを入れて
ください

小・中学生・高校生が応募の場合は保護者の同意が必要です。
 下記「確認事項」を理解し、応募することに同意します。
 保護者自署 _____

確認事項

- ・ご提供いただいた個人情報は保険加入、本事業遂行等の目的以外には使用しません。また本人の同意がなければ本事業関係者以外に個人情報を提供することはありません。
- ・情報誌・HP掲載用・事業報告などのため、スタッフが写真撮影を行います。防犯上、保護者や参加者による撮影はご遠慮ください。
- ・上記にて撮影した画像を情報紙・HP等に掲載することがあります。
- ・実行委員会または劇の練習を欠席される場合は必ず事前にご連絡ください。

8月30日(土)
9:00~13:00
◎老上小学校
体育館

老上学区防災フェス こども実行委員会 活動レポート

8月30日(土)に開催の「老上学区防災フェス」では、こども実行委員でステージ企画をします。
こども実行委員会では、防災フェスに向けて企画内容を考えています！

6月21日(土) 第1回こども実行委員会

センター長から老上学区の防災について教えていただいたあと、大学生の方と一緒に、水害が起こったときの家から避難所への経路について考えました。
そして最後は老上学区防災フェスでやりたい内容について、どんなことができそうか、楽しく防災について知ってもらいたい！など、こども実行委員のみんなで意見を出し合いました。



楽しく防災について知ってもらいたい！



すごろくとクイズを
組み合わせたら
おもしろいんじゃないかな？



7月5日(土) 第2回こども実行委員会

防災フェスでどんなことをしたいか、どんなことをすれば防災フェスに来てくれる人が楽しんでくれるか、案を出しました。防災フェスに来る小さい子からおじいちゃんおばあちゃんまで、みんなが参加できるものを考えました。いろいろ案はでましたが、みんなで相談した結果、防災フェスではクイズをすることになりました！



クイズは
個人戦の方が
参加しやすいかも！



水の代わりに
バケツの中に入れる
ものを考え中…

7月19日(土) 第3回こども実行委員会

どんなクイズなら来場者に楽しんでもらえるか、検討をしました。「個人戦の方がみんなが参加しやすい」「耳が聞こえづらい人や移動が難しい人がいるから、問題は紙に書いて、移動せずに答えられる方がいいかも」などの意見がありました。また、クイズの他にも、「みんなで協力してできるんじゃないかな？」という声があったので、バケツリレーも実施します。

やることが決まったあとは、チームに分かれ、サポーターも交えながらクイズを考えたり、バケツリレーで回すバケツの数や、距離を検討しました。「こどもや高齢者の間の受け渡しは距離が短い方がスムーズに渡せるかも！」といった意見が出ていました。最後にはバケツリレーのシミュレーションも行いました。

8月30日(土)の防災フェスでは
9時50分から、こども実行委員で考えた
クイズとバケツリレーを実施します。
ぜひ活動の成果を、
防災フェスでご覧ください！

。 防災フェスチラシ → → →



こども実行委員会は8月23日(土)にも活動予定です。
こどもたちの活動を支えるサポーターはまだ募集
中です！

サポーターへの申し込み方法や、毎回の活動
報告はまちづくり協議会HPに掲載しており
ますので、ご覧ください。 → → →
<https://www.machikyuu.jp/oikami/>



生き残れ老上!

参加無料
申込不要

防災フェス

日時 **2025年**
8月30日(土)
9:00~13:00

会場 **雨天決行**

老上小学校体育館
JALレーク滋賀老上支店駐車場
〈車でのご来場はご遠慮ください〉

ステージ

9:00 開会の挨拶

9:50 **こども実行委員会**
PRESENTS
こどもと大人で考える!
防災力UPクイズチャレンジ

11:10 **歌って♪踊って!**
ドレミの歌 & 17日はおにぎりデーの唄

11:30 **防災劇**
オйкаミ町の防災大作戦!

12:50 閉会の挨拶



一緒に
練習しよう!

「歌って♪踊って!」の動画が見られるよ!

各ブース紹介

ブース A
私も対象
老上の防災

ブース C
ペット防災
ふれあい歌遊び
血栓予防運動

ブース D
こどもと大人で考える!
防災力アップ
大作戦

ブース B
・グラレコで楽しく学ぼう!
・手助けが必要な人の支援を考えよう
・要支援者リスト、個別支援計画について知ろう
・みんなで助け合う工夫を考えよう

ブース E
車いす体験
AED体験

煙中体験

JAL駐車場
トイレトレーラー見学
起震車体験

スタンプラリー
(中学生以下対象)
全ブースを回って
スタンプを集めると
お楽しみ景品がもらえるよ!

※起震車体験は体験できる人数に限りがあります

※内容は変更になることがあります

主催 老上学区まちづくり協議会 (SOS委員会・安全安心部会)

協力 JALレーク滋賀 老上支店

お問い合わせ 老上まちづくりセンター ☎077-564-1430
(窓口受付時間 月~土 8:45~17:00 日・祝閉館)



まち協HP

おいかがつくぼうさい
老上学区防災フェス
じっこういいんかい
子ども実行委員会アンケート

⑦また子ども実行委員会での活動や企画をしたいとおもいますか？

- | | |
|-----------|------------|
| 1 とてもそう思う | 2 そう思う |
| 3 あまり思わない | 4 まったく思わない |

なぜそうおもいましたか？

⑧これから地域の行事や活動に参加したいとおもいますか？

- | | |
|-----------|------------|
| 1 とてもそう思う | 2 そう思う |
| 3 あまり思わない | 4 まったく思わない |

⑨子ども実行委員会に参加した感想や、心に残っていることを書いてください。

⑩防災フェス当日の感想や、心に残っていることを書いてください。

お名前 _____

アンケート結果

老上学区防災フェス子ども実行委員会 アンケート結果 (参考)

回収:8件

①なぜ子ども実行委員会に応募しましたか？(複数回答可)

防災に興味があったから	3
企画できるのがおもしろそうだから	5
友達と一緒にだから	0
家族や知り合いにすすめられたから	1
その他	1
・楽しそうだしヒマだから	1

②準備や話し合いのとき、自分からやってみたいことを言えましたか？

とてもそう思う	4
そう思う	3
あまり思わない	1
まったく思わない	0

③ほかの人や大人の意見を聞いて、自分の考えが変わったり広がったりしたことがありましたか？

とてもそう思う	6
そう思う	1
あまり思わない	1
まったく思わない	0

④まわりの人と協力して活動できましたか？

とてもそう思う	5
そう思う	3
あまり思わない	0
まったく思わない	0

⑤自分の役わりや仕事に責任をもって行動できましたか？

とてもそう思う	4
そう思う	4
あまり思わない	0
まったく思わない	0

⑥子ども実行委員会で活動をして、自分のできることが増えたと思いますか？

とてもそう思う	6
そう思う	1
あまり思わない	1
まったく思わない	0

⑦また子ども実行委員会での活動や企画をしたいと思いますか？

とてもそう思う	6
そう思う	2
あまり思わない	0
まったく思わない	0

老上学区防災フェス子ども実行委員会 アンケート結果 (参考)

回収:8件

なぜそう思いましたか？

・来年は友達もやりたいと言っていたから。 ・企画をやって楽しいと思ったから。
・楽しくてみんなも楽しそうだったから。
・防災フェス本番のときのドキドキと、終わったときの達成感をまた味わいたいからです。
・準備などをするのが楽しくて友達も増えたから。
・とても楽しく、実行委員も劇団員も「もう少しやりたかった」と思えるくらい面白かったので、来年もやりたい、いや、やります！
・実行委員に入ったら、防災のことがとても分かりました。だからまた実行委員に入りたいです。
・この企画はほかの活動よりも自分にとっては何か月もかかってやる企画なので、より考えて行動に移すのがとても楽しかったです。
・みんなと活動してて防災のことも分かったし、なにより楽しかったから。

⑧これから地域の行事や活動に参加したいと思いますか？

とてもそう思う	7
そう思う	1
あまり思わない	0
まったく思わない	0

⑨子ども実行委員会に参加した感想や、心に残っていることを書いてください。

・最初はあまり意見を言えなかったけど、それから意見を言えるようになりました。
・ナレーターが心に残りました。
・子ども実行委員をやって、4年生の実行委員の子と仲良くなれたのが心に残った思い出です！！
・バケツリレーで司会もできて楽しかったです。
・たくさん友達ができてよかったです。子ども実行委員会は、初回は3人だったのが、2回から急に8人になり、同学年も増えて、笑い合えるような環境がとてもよかったな〜と思います！
・最初は緊張していたけど、いろんな人と話していったら、仲良くなりました。友達もたくさんできました。
・自分が考えた企画が採用されるのがとても嬉しかったです。そしてバケツリレーが参加者に喜んでくれたことがよかったです。
・休んでいる日が多かった。 ・みんなで取り組めて知らないことをたくさん知れた。

⑩防災フェス当日の感想や、心に残っていることを書いてください。

・とても緊張したし、反面に楽しみでもあって、とにかくいろいろあって、夏の思い出になりました。
・防災フェスの劇の前に緊張しました。
・出番が終わって、起震車体験や、トイレトレーラー見学などを子ども実行委員のみんなとできてとても楽しかったです！またやりたいです！！
・劇も実行委員もどっちもできて失敗がなくてよかったので楽しくておもしろかったです。また行きたいです。
・クイズをする前や劇のときは、とても緊張していたけど、上手にいったので、とても気持ちよくなりました。これからも実行委員や劇団員に入って頑張りたいです。
・とても緊張して、セリフも忘れることもあったけど、最後までできてよかった。
・原稿を読んで何百人に説明するのが今までにないことなので緊張しました。
・劇の方は見たことがなかったからとてもおもしろかった。

今期の取組

・令和6年度 草津市社会教育委員会議内容

・第1回 令和6年8月 27 日(火)

【主な議事】・今期の社会教育委員会議のテーマについて

【討論内容】・今期の社会教育委員会議のテーマについて

【主な意見】・地域コーディネーターの役割

- ・緩やかなネットワークにおける取組
- ・地域活動に参加できていない層をどのようにつないでいくかが重要
- ・事業に大学生が参加するために必要なこと

・第2回 令和6年 11 月 24 日(日)

【主な議事】・松原中学校のスクール ESD について

- ・矢倉学区の地域協働合校について

【討論内容】・地域で大人と子どもが課題解決型の学びに取り組むにはどのような要素が必要か

- ・大人が社会教育活動に参画するためにはどのような工夫が必要か
- ・「自ら考え行動する人材」を育成するためのポイント

【主な意見】・学生の関わりがこどもの学びを促していた

- ・親子参加により、こどもを媒介として親同士がつながっていくことが理想
- ・学生でも気軽に参加できる関わり
- ・身近なことを題材に設定する

・第3回 令和7年2月 27 日(木)

【主な議事】・今後の地域における地域協働合校の展開について

【討論内容】・地域版 ESD の展開の方向性について

【主な意見】・親子や地域住民が気軽に参加できる環境づくり

- ・最新情報の共有と子どもにも大人にも届きやすい発信
- ・「おもしろそう」、「やってみたい」と思える多様な企画の展開
- ・こどもが主体的に考え、行動する力をつけることで成長につながる

・令和7年度 草津市社会教育委員会議内容

・第1回 令和7年5月30日(金)

【主な議事】・モデル事業について

【討論内容】・モデル事業について

【主な意見】・コーディネーターが事業の核となる

・高校・大学や地域へのサポーターの募集について

・コーディネーター、サポーターは名前のとおり役割に徹する

・第2回 令和7年8月30日(土)

【主な議事】・モデル事業のこれまでの取組について

・モデル事業の視察、コーディネーターと質疑応答

・こども実行委員会アンケート素案について

【討論内容】・モデル事業を視察した感想

・こども実行委員会アンケート素案について

【主な意見】・若いコーディネーターがこどもの主体性を促していてよかった

・こどもが地域をつなげる接着剤の役割を果たしていた

・保護者世代をどう巻き込んでいけるか

・第3回 令和7年11月17日(月)

【主な議事】・モデル事業の振り返り・成果と課題の検証

・社会教育委員・総合教育会議での御意見

・報告書のまとめに向けて

【討論内容】・今後「地域版 ESD」を推進するにあたってのポイント

【主な意見】・コーディネーターやサポーターをどう見つけてくるか

・伴走支援が大事

委員名簿

	委員氏名	所属名等	備考
1	四方 利明	立命館大学	委員長
2	川中 大輔	関西学院大学	副委員長 令和7年3月まで 龍谷大学所属
3	木戸脇 美由紀	校長会(小学校)	令和7年4月 30 日まで
	井上 忠之		令和7年5月1日から
4	柴原 力	校長会(中学校)	令和7年4月 30 日まで
	奥村 真美		令和7年5月1日から
5	茶木 修一	草津市コミュニティ事業団	
6	駒村 晃子	くさつパールプロジェクト チーム	
7	中村 年夫	草津市青少年育成市民会議	令和7年5月 27 日まで
	永村 和江		令和7年5月 28 日から
8	奥井 さよ子	草津市まちづくり協議会連合会	
9	岡田 やよい	地域コーディネーター	
10	香川 幸希	草津市 BBS 会	
11	羽仁 恭子	保護者代表	
12	出呂町 馨	草津市民生委員主任児童委員 協議会	
13	山崎 薫	公募委員	
14	則武 麻里	公募委員	
15	望月 皓貴	公募委員	

令和6年度・令和7年度報告書
草津市社会教育委員会議
草津市教育委員会事務局 生涯学習課
〒525-8588
草津市草津三丁目 13 番 30 号
Tel 077-561-2427 Fax 077-561-2488